

最先端医療を語る！日本の医学専門家チームが当院を訪問し学術交流を実施



健康と養生は私が率先して実践します 2025-10-26 15:50



10月26日、順天堂大学医学部江東高齢者医療センター長・循環器内科 宮内克己教授、順天堂大学医学部消化器内科 汪先恩教授、順天堂大学医学部江東高齢者医療センター消化器内科 浅岡大介教授、順天堂大学医学部消化器内科 竹田努准教授、ならびに北京華通国康公益基金会代表一行が当院を訪問し、当院教育棟王惕吾ホールにて高水準の学術交流活動を実施した。

当院常務副理事長 応争先、党委書記呂忠ら指導部、三院区の循環器内科・消化器内科・肛門外科・病理科などの科室主任及び医療中核メンバーが共同で参加し、心血管・消化器疾患の最先端診療進展について深く議論した。

1 挨拶で方向性を示す

協力のビジョンを語り合う



常務副理事長の応争先は挨拶の中で、今回の交流が病院の発展に深い意義を持ち、特に中日医学交流の独特な価値を顕著に示し、双方にとって極めて貴重な対話プラットフォームを構築したと指摘した。

彼は、今回の短い交流は終点ではなく、新たな出発点であると強調した。これを機に双方の常態化かつ深層的な協力を開始し、専門技術の新たな高みを共に探求し、医療サービスの内容を豊かにすることで、関連専門分野のレベル全体を向上させることを期待している。

これはまさに当院が国際的な視野と開放的な協力精神を堅持する生きた実践である。近年、病院は国内協力の深化と同時に、積極的に国際的な視野を広げている。我々は確信している。日本のトップチームとの交流協力こそが、病院の長期的な発展と専門分野の人材育成を計画する上で重要な一歩であると。



党委書記の呂忠は総括挨拶の中で、まず日本の専門家チームが当院を訪問し交流したことを歓迎し、今回の厳密かつ充実した学術活動の手配を高く評価した。

彼は、今回の医学交流が顕著な成果を上げたことを指摘した。心血管分野では、双方がそれぞれ高血圧予防管理とプラーク管理を特色としており、アプローチは異なるものの目標は一致し、心血管疾患の予防・治療における効果的な取り組みを共に示した。消化器分野では、順天堂大学のヘリコバクター・ピロリ感染制御と胃癌の早期診断・早期治療における先進的な経験が、我々の関連分野の向上に貴重な参考を提供した。

彼は双方が頻繁に交流し、継続的な相互訪問・学習を通じて医学の進歩と社会発展を共に推進すべきだと強く提唱し、今後のより深い協力関係への期待を表明した。



北京華通国康公益基金会理事長の陳冉氏は、当院の対外交流の成果を高く評価した。当院は指導部のリーダーシップのもと、質の高い双方向交流の仕組みを構築しており、今後も中日医療交流協力を深化させ、相互に学び合い、共に発展していくことを期待している。



今回の学術交流活動は、本院党委委員・副院長の趙奮華が司会を務めた。

2 著名講師による講演で真知を授ける
双方向討論で思考を刺激する



順天堂大学医学部附属 順天堂東京江東高齢者医療センター長・循環器内科教授の宮内克己氏は、「アジアから発信するエビデンスに基づく医療の声——中国が主導する高血圧エビデンス研究と日本が推進する動脈硬化進行予防」と題し、アジア人集団のデータに基づき、中国の高血圧エビデンス研究成果と日本の動脈硬化予防技術を共有し、心血管疾患の予防・治療に国際的な視点を提供した。



順天堂大学医学部消化器内科准教授・竹田努は『消化管早期がんのスクリーニングと治療』に焦点を当て、臨床事例を通じて日本の消化管早期がん内視鏡診断・低侵襲治療の最新動向を詳細に解説。早期がん検出率向上の実践的戦略を伝授し、専門性と実用性を兼ね備えた内容となっている。





1





インタラクティブセッションでは、宮内克己院長が心血管分野から、竹田努准教授が消化管早期がん臨床実践の観点から、当院循環器内科主任の盧亮、消化器内科副主任の呂響銀、循環器内科診療グループ長の厲飛翔と共に、関連するホットトピックについて議論を展開した。現場の医療スタッフは積極的に質問し、専門家たちは臨床経験を基に一つ一つ丁寧に回答。意見交換の中で数多くの革新的な解決策が生まれ、臨床課題の突破に向けた新たな道筋が示された。

3 訪問記念写真集

学術活動に先立ち、病院側代表の案内で日本専門家一行は関連診療科を視察。当院の医療サービスプロセス、医療機器配置、人工知能技術について詳細に理解を深め、専門分野の発展成果を高く評価した。

視察終了後、両者は記念撮影を行い、今回の国際学術交流の重要な瞬間を刻んだ。

